



一人ひとりの富山自慢からはじまる。

仕事とおもてなしに、新鮮な驚きを。

私には、仕事でもプライベートでも、いい意味で人を驚かせたいという思いがあります。仕事では、富山ライトレールのトータルデザインをはじめ、富山を訪れた人たちに「いいね」と思ってもらえる仕掛けづくりをしています。

また、県内のみならず全国のいろいろなプロジェクトに携わるうちに、都市部のクリエイターとの交流が増え、その人たちが富山に遊びに来るようになりました。いろいろなところを案内したり、その人の要望などに合わせて飲食店やお土産を選んだり、とことんおもてなしをすることが多いですね。そのご縁が、全国のさまざまなプロジェクトに関わることにもつながりました。

富山の良さは、日常の中にある。

富山の人は、富山の良さをどうもうまく伝えきれてないと思います。例えば、冬の時期だけ寒ブリが獲れる理由や、ボイルされたホタルイカを美味しく食べる一手間などを伝えるだけでも富山の印象は違ってくるのではないのでしょうか。富山の食の魅力や価値は、素材だけでなく、富山独自の食べ方の存在も大きいですね。ひとつ挙げれば昆布メもそうですが、富山にしかない食はいっぱいあるので、それを事あるごとに伝えるようにしています。



島津勝弘さん

日々の仕事でも、富山を全面に打ち出す。

初対面の人には、「富山の島津です」と挨拶をするようにしています。東京などのプロジェクトでも、あえて富山人として働いているうちに、周りの人たちが「富山の島津さん」と紹介してくれるようになりました。また、当初は事務所を東京に移さないことに疑問を持たれていましたが、最近では「いい環境で仕事できていいですね」と羨ましがられます。特に富山を感じるのは、田んぼ越しの四季折々の山の風景。小さい時から見てきた、大好きな景色です。

島津勝弘(しまづ かつひろ)さん
島津環境グラフィックス代表、クリエイティブディレクター。富山ライトレールのトータルデザインをはじめ、公共都市環境における景観デザイン、環境グラフィック計画に携わる。まちづくり関連、景観審議会などの委員会活動にも参加している。

富山に誇りを持つために、大切なこと。

私の周りには富山の「人と味」を求めて何度も訪れる人が多いのですが、最近は「富山の人にお世話になった。みんなすごくいい人たちでした」と言われることも多く、人への評価が高まってきています。富山を訪れた人に対して、一人ひとりが自分なりの目線で素晴らしさを伝えることが大事。富山のことを、きちんと自慢できるようにしたいですね。そうすることが、富山への誇りにつながっていくのだと思います。



この連載では、富山で活躍するさまざまな方の「アメイジング(驚くほど素敵)な富山」について掲載します。また、WEBサイトでは皆さんのアメイジングなエピソードも募集しています。
▶詳細は、「アメイジング トヤマ」で検索してください。



WEBサイト
QRコード